862
1
65

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1

ガラス使用

漂客奇談

完

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1

ガラス使用

862-1
(65)

漂客奇談

第一話　一字不ヶ細字ハ別本ニ稍ヶ瑣細の事ヲ書記ス　七二ヲ採リ補入ス

注　寛政ヶ辛亥九月今井士官ヶ那宇和浦漁人治兵衛ヶ南部ヶ悪漂流就テ度帰郷ノ始末ヲ聞ク

抵ハ同志幡多郡中浜万次郎ヶ事ニ於テ亦今茲ヶ辛亥ヶ帰郷ノ始末ヲ聞ケル者ニ符合ス

左ノ如シ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用

秋九月二十五日天保十二年丑正月廿三日
富乃助舟人四人合力して重丈余の海亀を獲
ぬ甲羅に径七寸ばかりの穴ありて貫通せり
小の方を津の沖どんと呼び大を親どんと呼
ぶ親どんは潜ること久しく縄を放ちて逸
走を防ぐ事能わず又小の方八十の岬と呼ぶ
所を過ぎし頃より風波漸く加わりて
船を救うこと能わず遂に沖どんを放ち
ぬ親どんは尚ほ引ずりて漁事終日又獲物
なし井田の入海を出帆して十里余を
走りて三重の内浜と呼ぶ所に着す
漁事終日又獲物なし二里山の岬十町余を
走りて二十の浜と呼ぶ所に着す
漁事終日又獲物なし

宗吉打笑ひ翻然として起ち櫓を
繰六梃立てて乗り出ず風波の勢ひ
凡吹船を覆すの恐れあるを知らず
揚帆急ぎ切戸岬の方へ走る
船既に切戸岬を乗り越すこと
数十町にして櫓を乱打して漕ぎ
船を転じ入江に入る風波猶烈しく
船底に潮入ること甚だし
浪荒く逆まきて進むこと能わず
夜半に至りて風少し和ぐ
夜半に至りて風少し和ぐ
又櫓を操りて漕ぎ出でんとす
又櫓を操りて漕ぎ出でんとす
風波の勢ひ前に倍す
風波の勢ひ前に倍す
船を転じ入江に入る
船を転じ入江に入る

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用

男を遣し一統迎ひすゝを呑仕唯称佛を称名のみ
其外なく船檣を流して一艇となるの風に牧
ふ事なく大小の帆柱と堂床に横ふ結構度
なき程の舟を用ゐ仕風を待也流
ひも返ひも深流仕終よ山と見へ
陸しき四大浪千の如くなるかうるくあつて
て凌ぎ居る
九日に至り漸く仕夜来の大浪よりも潮を増て
殆漁舟とたゞ〳〵飢を凌ぎ居
世界の風雅話を用ひ湯を沸へ全用意の
ものゝ外なく船檣を流して一艇となるの風に牧
ふ事なく大小の帆柱と堂床に横ふ結構度
なき程の舟を用ゐ仕風を待也流
ひも返ひも深流仕終よ山と見へ
陸しき四大浪千の如くなるかうるくあつて
て凌ぎ居る
九日に至り漸く仕夜来の大浪よりも潮を増て
殆漁舟とたゞ〳〵飢を凌ぎ居
十日よ而漸く風雨少し静まるを待て
焚

云ふの声をふと聞き咎めて又一艘漕ぎ寄せ
流れ船を神佛よ
為と見出し一統勇力を奮ひ漕ぎ進み
船を回らして帆を揚げんとする時
いま一艘何処より来りしや知らず
帆柱を乗り越して飛び移りしが
帆をも綱をも切り落して働きし
刹那一艘の多勢なる船小鳥の如く漕ぎ寄せ
先頃破船の者共船中に乱入し
荷物を奪ひ去りしと同じ者共なるや
筑波屋の者共船中に乱入し

洞徹して為と思ふ間もなく乱れ入る
先頃あれ程漕ぎ寄せし船影も
なく磯辺の方へ漕ぎ去りぬ
多く物品を奪ひ去りて未練気もなく漕ぎ去りぬ
お節初め船頭共もふ漕ぎ寄せし磯の岩陰より
破損せる大船一艘小舟二艘磯辺に繋ぎ
遠巻きにして時の揚がるを待ち受けし様子
なり尤も船中の人の住居を残し
多くの荷物のみにて船頭
未だ帰り来らざるは乱れ入りし
船の方へ去りし磯よ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1

ガラス使用

彼客之有以知之一月未滿
第七之秋客在江戸之
某磯吉上京途中百武日文方の方命にて連
吉と共に千知人を
吉を尋ねる石井のお
の為と見へ後より
おまき石下南へお南
元郎り同宅より
より疲労一義（只今命の
石命之人只見と

石のこ力よお
歩行と就お
分よ治兵衛
お極め五郎
まことりく
元吉無月
暁よ右之
又信吉
吉吉

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

殊の外丁寧に取扱ひて其国俗の衣服一枚と雖
も決して外抱を許さず
　さて夜に入れども大船漂泊の処
より命に応じ船より案内を乞ふ
に命大夫より為に注進の処全く
組の者ども用意して来りしと
波船の水主六人小舟二艘にて
船へ漕ぎ寄せ一統へ為の贈
物などありて
波人之為に夜食を調ふる物ども
并衣服残る物なく小船を下し
と示す事甚だ懇切なり
焼羊豚の乾干物をおくりて其
しを見れば鯨なり大さ十
ケ程ありて中骨も薄き
ことハ云ふ迄もなく
清水御名誉御政務小栗利幹「ニセツーツ」と申す
まで船の名と「ウリヨウイチ」と申すまでなり

鰊漁ニ大鰊抔ヲ獲ル中ニテモ此ヲ見ル事稀ナリ
鰊ヲ取ルニ中樽ニ大ナルヲ仕込ミ網ヲ通シテソノ
網ノ針ノ如キアリテ鰊ノ口ヨリ尾ヲ刺シ樽ニ
有テ捨ル用ヲ爲ス扨切刃ヲ以テ切割ル事ヲ知ラス
方ニ首ヲ切ル初メ鰊ノ肉ヨリ鰊ヲ煮ル釜ノ大ナル
ヲ以テ煮ル釜ノ如クニシテ樽モ大ナル鰊ヲ入ル
此樽ヲ沼東屋ヘ入ル
十月ヨリ「サントウイス」迄ノ間ニ「ウワホノ」ト申ス所ノ
ヲ漁ニ行帆往

此所周回ヨリ来ル道モ絶テ無シ
芽登ノ一人ノ外ニ人ノ来ルモ稀ナリ
切女ハ長ク坂ヲ来ル抔ト云ヘドモ
不ヲ言ヒ事ヲ弁ジ事ヲ為ス抔ハ
異ナルノ実ナリ
此後国境ノ番ヲ置ク小栗利斡ト云者下ノ如
ク人ヲ「タリヨウチ」タリヨウチハ名ノ
此人来テ玉民ノ病ヲ療ス或ハ手ヲ以テ何ノ
ヲトモナク人ヲ扶ケ大ナル病ヲ大功ヲ以テ國

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

只人俗ハ波「ノタリヨウ千」ト汲ミ取ル人ニ対シテ世話
ヲ焼カヌ事モ通一ト云ヒ度イ事ヲ通シ又ハ聖言ノ裏ノ
意ヲ悟リテハ云ヒ度イ事ヲ通シ又ハ覚ラヌ事ヲ世話ヲ焼
カヌ事モ通一ト

ト共ニ領分ノ人ヲ召集メ其式ノ如ク義ヲ執行ヒ物産ヲ以テ壮懸懃ニ酬ヒ且ツ細メ「カシヲ寸」ト云ヘル薬ヲ献ジ又ハ祈禱ヲ行ヒ或ハ鍼灸ヲ施シ其外百般ノ療治ヲ尽シ人ノ業ヲ勧メ死ヲ免ル、者多シ「カシヲ寸」渡リ来ルヨリ此ノ方「カシヲ寸」ト呼ブ其ヨリ兄弟ト云ヘル者出来リ其ノ方ヲ改メ「ヲヲ子」ト云ヘル者多シ

或ル年ノ春ノ頃「ヲヲ子」ヨリ田地耕作ノ為メ人ヲ会津ヘ送ル此ノ地ヨリ会津ヘ一ト月ノ行程ナリ私ヲ以テ貢物ヲ献ジ帰リ来ル頃ハ村役人ヲ初メ村中ノ人別ヲ改メ其ノ上ニテ村役人ヲ会津ヘ送ル此ノ時ニ当リ

「ショレンと申て江湖の指あるもの
「コエーモシ」と叫びまわり候方を
見ル処波「ウリヨシフイチセル」にて
命の恕そんことのを云ふ
江又多等ハ皆吸物
其節ハ御免
見ル一眉を
ふ一時も流る
上て多一方を
逃り口より
明日「八十石」湊に
出る処フイチセル
脇ゐて
乍ら
ハ
ハ
ハ

特ニ頃矢ヶ崎ヒ兄弟諸氏「八十日ニ」ト約束ノ
而シテ帰期ノ約束往々ニシテ変ヲ生ジ
お別被「タノシカリヨウチ」ト八銭別物等ヲ贈ル
往ル「アイチセル」ハ私ヲ「キヤシブシコーコシ」ト呼
私モお別ノ意ヲ含ンデ「アイチセル」ト答ヘ
江お私上私ヲ名ケ私ヲ名ケ
ヲ名ケ使私ヲ呼ブニ
上陸ノ後私ヲ送ラン為ノ礼物ヲ贈ラン為
ヤシブシコーコシ」ト呼ビ往ヲ呼ブヲ
年三月ヨリ六月ニ至ル迄ヲ通ジテ
命ヲ来ヘ来ヘ来ヘ「キヤシブシコーコシ」ト
ヒハリ来ヘ支配地ヲ「ツシマ」ト
ヲ山ノ小倉ヲ小私ヲ称ス
ヲ称ヘヲ私ヲ
コーコシ」兄弟ヲ往上陸
小家ニ私ヲ南山ノ人ハ
二人ノ言ヲ私ヲヤシブシコーコシ」ト知ル
私ヲ揚ヲ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1

ガラス使用

名湯多き地なれども矢ッ張ここも
嶋山もあり又椰子地もそれ程
のものもなく皆人丈ケ実を喰ふ
計一椰子の実の中にあるゆへ
今日一盤の
かきりの
衣類も
なく
裸体にて男女
共に裸体にて女は椰子の
葉を以腰を蔽ひ椰子の葉
にて編
たる
笠を
冠り
ぬ
時は
淡路の
如く椰子の木にて小屋を
作りて一家
族
又椰子の木を刳抜て鉢
子丈ケ
の
人数を
盛
食
事
を
なす
其国
風
俗
等
を
聞
に
男
女

海を
泳ぎ
死
者
あ
り
葬
送
焼
香
を
行
ひ
女
を
か
ゝ
へ
ゆ
か
ず
の
而
て
少
年
な
ど
も
成
長
す
れ
ば
妻
を
迎
へ
家
を
立
る
迄
の
二
百
八
十
日
一
年
三
百
六
十
五
日
一
年
と
数
ふ
る
事
を
知
る
其
国
の
広
さ
周
廻
三
十
里
計
一
宮
を
置
て
人
物
は
亜
細
亜
三
人
ま
ぜ
ふ
事
十
日
も
髪
を
ま
く
掻
撫
に
仕
り
衣
類
家
作
伊
斯
波
尼
亜
風
よ
り
多
く
「イスパニア」
より
来
る
人
の
言
葉
を
一
切
用
ひ
ず
「イスパニア」
より
来
る
人
の
言
葉
を
一
切
用
ひ
ず
二
度
の
飯
を
喰
ひ
て
夜
に
入
成
ば
寝
る
事
日
本
の
西
南
東
道
より
十
二

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

を東へ鯨漁一年度中の処を東南へ家「ウワホ」辺
に至る処丈の方向風土の異なる処より南へ家抜「十八ケイト」
の間「エショ」と云ふ九月頃より「エショ」の例よりモウイ島を
此鳴周廻二千里余二島有り山高し「イキリス」文明
人物い亜細亜のごとくにて衣類を英吉利しかくた
ゞ異なるを細へ辰巳へ家「ウワホ」辺より西へ南を廻
望峯首より南アメリカの端地方より西へ南を廻
るものゝ処より山の如き氷山数流来る内大なる
ものは

三才十四五千をこえあり

南アメリカ火地の岬を通り少へ家望峯首より北へ
小米利幹「ニセツセーツ」を経「サアヘイブン」と云湊に着
帆仕舞

湊より三里半の入口東西の流を入口より峰あり
大なる石の家を作り石垣の大砲小筒を備へ
三里半へ楼を建事広く屋根ハ皆板葺大抵
通行の時ハ楼板双方へ引除毎戸ハ柱を建
小例ハ「ハヤヘブン」家数三千軒より多く

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1

ガラス使用

来ること多年師匠「ハアツル」ト称ス
万国地理測量の法等を学ぶ為
慶応丙寅幕府より「フイチセル」氏帰国又「サアスイ
ゴン」に至り「セバ」と云埔砦の頭を
埔砦の方まで細工を以て知事
トナツキ」の「フイチセル」宅にて
氏五年滞在年又埔砦の方へ
同七年氏帰朝の方に
氏五年「コベス」と申人
氏帰朝より雇

[illegible]山にて世界の人物等[illegible]
風俗等人々[illegible]
[illegible]年[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

同じ月下旬出帆雲く家
着と皆家に家有
皆家く向「ムチウ」と申処
アメリカ乃汽人お結所
亜に鳴一異口
来利幹くお結所汽亜く
ふく高無事帰所「イスハニア」
くく人多く死生名英吉利
結所八月比出帆又日
家「キリニヒ」に名前月比同帆南く家翌年
同ノ二月「セウニ」と云処ふ名地と「イスハニア」属国ふく
風俗生き違ふ有ふ名ふく
ふ家南く指一喜望峰と
「サアベイブル」湊ふ帰帆
上陸いろいろ山有の商「アイチ
ふ名ふ私ふ先く鳴ふて
ふ命ハ御た免一私ふく
私云而お拵数代多お拵

五十指実而説話如ふるゐて右用事を
入用しるもおぼ時ぼ結案日故屡上来る
実ぼ度打絶ハ帰朝往ぎ久米利
幹ぼ語ぎ百打ち船帰国ぼ
女ぎ日本へ咽きハ市ぼ法を
切ぎぎ石咽ぎへ民打ぎぎ
法打ぎぎへ方ぎ打ぎ
ぎ渡ハ七人余ぎ波ぎ南「アメ
リカ」ぎ国ぎ「名子ぎ」ぎ「イスパニヤ」ぎ国ぎ処ぎ
入津打ぎ運ぎ往ぎ新ぎ夜入
六月小米利幹ぎ「サンフセシコ」
大湊ぎて高山ぎぎぎ
ぎぎぎ三月中運ぎ往ぎ
ぎ把ぎ一度ぎ度ぎ
ぎ度ぎ干往国ぎ
ぎぎ打ぎ

一本岬

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用

一夜こ入海こ石ヲ投ケ平ラ「セクリ」ト称ス毛
ヨリ上陸馬ヲ借リ道ヲ取リ山ヲ越ス事数
日ニシテ七年ノ秋山上ヨリ大川ヲ下ルヲ見
ル其ノ大サ小川ニ倍シ金気ヲ帯ブ南川中川小川ト合
シテ大川ト為リ東ニ流ル堤ヲ堺ヒ人家アリ
砂金多シ其ノ水上ヲ尋ネ行ケバ山ヲ越ス事
二日ニシテ硫黄ヲ出ス山ヲ見ル遠ク煙ノ
如キ者アリ其ノ地ニ至ル硫黄ノ気鼻ヲ衝キ
咳ヲ発シ堪ヘ難シ其ノ水ヲ飲ム者ハ皆死ス
其ノ北山ヲ越ス事二夜ニシテ海ニ出ヅ日本
ノ主ヲ領ヲ尋ヌルニ「ヲロシヤ」ト云フ国ノ人多シ

処ヲ実ニ慮ル事ヲ中ニ其ノ寒ヲ懐ヲ抱ク者ハ
ヲレヲ事ヲ取ル山中ニ入ル虎ヲ捕ヒ七年ノ秋帰
ル合セテ三年ニ成ル
栗川ヨリ雇ヒ「百ヲ石ヲ」ニ至ル三年ニ成ル
御口ヨリ船ヲ取リ乗ル其ノ船ハ牧舎ヲ為ス
頁家ヲ成ス者ヲ一百余人ヲ乗ス自ラ
ヲ堀道ヲ取ヲ事ヲ能ハズ集ル所ノ金ヲ納ム
高人ヲ乗渡ス銭ヲ百枚ヲ取ル者ヲ
ヲノヲヲヲ「セクリ」ト「サンコラセヨ」ト称ス抔

亜米利加」と「メキシコ」と境論を
こと遂に合戦に及ぶ時分、亜墨利加
の方より砂金を多く見出し、国の船書を
もって金山を堀立て候に付、段々
見物の人集まり、「ウワホノ」という所
より「ハナロノ」に至る迄、凡そ百里
余の間、人家軒を並べ、諸商人入り込み
候ゆえ、右の場所へ移住する者多く、
月末より「ウワホノ」の「ハナロノ」に至る
迄、凡そ百里余の間、人家軒を並べ、諸商人入り込み
候ゆえ、右の場所へ移住する者多く、

雇うに及ばず、皆人と雇い呼び集め帰朝致し候
旨申し渡し、十日程の内に残らず帰朝
いたし候。その後、亜墨利加より来る
商船入津致し候節、右人数組
合、双方
事故これなき様、取り計らい候旨、対面
の節、取り極め候。
一、外国人、日本の婦人を妻に
致し候儀、勝手次第たるべし

十三人ニテ江戸表出帆ノ後
発シ来リ本十三人ノ内八人ハ普西亜「ロタホラシケ」
ト云湊ニ残リ五人ハ此ノ船ニ
帰朝ノ約束ナリ
アメリカ」ノ艘私紀加ノ
乗セ来ル波私ノ人ト云ハルヽ
カヽルヿヲ知テ物語ヲモ致兎ニ
角ニ乗組ノ
物ヒノ
同ジクシテ来ル言葉少モ紀加日高

私ノ思ヒ天竺カ私ノ虎吉ノ十二人ニテハ戻
約今咸臨丸ニ乗ヲ出帆西ノ流ノ吹流ニ播吹
形ヲ指ヲ「ヨロシヤ」ヲ
アメリカ」艘私ノ助ケモ
因私ノ艘ニ移リ乗合ノ漂流人ヲ多ク動破ニ
ノ今一破ニ人一破ニ人ヲモ二破ハ「ウワホ」ニ来リ
ノ今ヲ私ハ「ヨロシヤ」ノ「ロタホラシケ」ヲ
人ヲ約一「ヨロシヤ」ノ後人ヲ
ヲ私小ヲ名私ヲ又今ヲ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の去ハ止て殘り居ま
出来ず紀氏之人ハ何事日本（迄）
万氏命得ず之ハ上陸
ハ十日ノ」滞そて日本人吉郎と
加之摩私そ漂流
度を復私ハ帰朝中
「リウ」と云ま人ハ報章を
～ハ去ハ帰朝後度
と書簡ハ私事ハ報
ハ

ず之ハ如ハ事ハ
発私別ハ今ハ破ハ明朝往紀
ハ言ハ今ハ私ハ朝上陸同
上陸ハ私同氏約ハ
多ハ万氏命同氏ハ世ハ
アメリカ」ハ商私ハ度「セレベス」
ひよ事ハ

又小栗利幹私「メア」と云ハ
入津往ハ度貿易ハて清国（渡海）ハ

畢竟天保以後新入れ取扱ふ事ニ
万延元年ニ新ニ対面ニ出ル琉球
使ハ従来ニ倍増ニ而ニ百人ニ余
候ニ付、御国ニ而ハ御馳走ニ差支
候ニ付、御断申上候ニ付、其節ハ
三人ニ減候様ニ申来候ニ付、
其節ハ三人ニ減候様ニ申来候ニ付、
琉球ニ而ハ御馳走ニ差支
候ニ付、御断申上候ニ付、其節ハ

千七九」方へ書状ヲ遣シ候ニ付
ト七ツ下ル頃世話ヲ頼ミ置候
八友ヲ招キ分ケ盃ヲ頂戴
残リ多ヲ与ヘ候ニ付
イチモアロ」ヨリ書翰
来利幹人ヲ遣シ
彼方ヨリ頂戴
ヲ添ヘ遣シ
見届候ノ方へ同帆先
人数集リ来リ船ヲ
陸ヨリ幾人ヲ迎ヒ
着ヲ見届ケ通弁
面ヘ来ル何ヲ人ヲ
ヲ載セ候ニ付
人日本詞ヲ名乗ル
問ヒ候ニ付文
ヲ添ヘ遣シ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1

ガラス使用

主訴に委遣す。當揚いたし、
本文陸へ上り候節、
麻ニ設人、
所附もよく、
草ニ持物と出、
ニ候ニ付、
あり、主親ニ薩ニの設人、
郎へとゝ人数多人ニ、
訴へ、村ニ、
候ニ付、
候ニ付、
候ニ付

大勢ニ而住ベキ十二ヶ所の方に番人の出張を
物々ニ事寄セ番人を殺害ニ及候ニ付而ハ
役人ニ申出ル筈ニ候ニ者ニ候ハヽ
候ニ付而ハ日本ニ用事ニ而村役人ニ
為物ニ事寄セ夫々ニ住居ニ而
組頭ニ申出ル筈ニ候ニ付而ハ
定法居候ニ付而ハ日数ニ而
残猿人名麻文信間切ニ
極内ニ人ニ
扱ニ
猿人ニ
給米物等ニ
薩ニ
人ニ
家ニ
猿人ニ
ニ
ニ
方

高ニ
ニ
猿ニ
ニ
ニ

城下に至て連市下處要害
市侍出役人数七人
侍出役人数人半市
侍出役人数人
侍出役人数人
侍出役人数人

今年六月市ニ百許ノ漂流ノ
白露ヲ救ヒ救ヒ粗綿金
物領方ヘ帰帆砂金
天象海上測量ノ
ヨクタンニヤアメリカヨコウツテヒ
住吉浜ヘ投錨ス投錨
金銀ハ通用ス金
ノ如キ地ニ
渡ラズ
通リ下ミ関ヘ
御咄下ミ
救地ニ
来ル人
在リ
命中ニ
小浜ニ
帰ル
彼ノ万延
来ル事ヲ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1

ガラス使用

第二話

傳藏等漂流ウワホノ土地ヨリ帰朝及ビ亜米利加ニ至リ
航海ノ途中ニ於テ波地ノ風土ノ事ヲ記ス

小笠原事実

一 島主ノ祖父ヨリ土地人物ヲ細ニ聞ク事

「ウワホノ」一八「コナハイ」一八「モロカイ」一八「アトワイ」一八「モロカイ」ヨリ
帝室ノ郡有ハ「ウワホノ」ノ周回八十「ロノ」ト云フ漸ク近
来ヲ極メ繁昌ヲ盛ンニ遊女町等モアリ美国

七月ある山小屋に用ゐ砂地に
草葱の類を作り高地牧の全景大方等
しより入津の形ちなるべし貢小屋を設け
多く米利幹より救恤物を
不得已して衣類食料米
利幹の風にて衣服を
渡すへし極く粗末に編ませ
男は髪少く切るを
又ゝ髪を垂し垂ゝ
髪を垂し垂ゝ

入津給与七月ある牧士方
牧士地ゝ主「キニカケヨリ」の
小米利幹より衣服食料
不給与此人元醫業
救ひものつとまりの形ちにて
祝海の途中にて百米利幹一度人と
吉利より婦け英吉利より再人と
けの方へと廻すべき
右三度の事と合せ

一舎歟此日おそくも出発し
と云ふ処にて昼食す此辺
麦の秋と仕方平野に
上三位と処を
却て共和別と
八帝在之「サアヘイフ」
アメリカを波地して「メ
抔と申処あり「小アメリカ」
東の方八低き山平

にて元二ヶ年平均一円中祖二ヶ一位小茶利幹乃
政事よりて二年家加小ク多ちを家い法ま入金て開ク
ル一加毎ニ在屋のこと
ととあまこと家ハ焼んまて
梅石のごとくなる物を積
小ク生ま二階又ハ三階位も
在屋ハ板葺よりも上ま
油をこと生ることを
在るなり元十ニ付ハ方なる高ヶ尺半の壁大小を

夫ニ当物を上ケ皆ク灰光
一常食にハ麦を粉ニ仕豚の脂を以粉ニ
にく味を付油入ずニの粉ニ薬一年気を付熟ニ
晩ニ焼一ト製ニ仕ル味噌
醤油皆ニ肉玉葱玉
ニ付造ル茶ハ白米
茹玖ノ間ニ在ニ入ル味淡を加て人の力ニ応ス
ト事常食ハ外ニ麦も茶も金
鶏の玉掛ハ事ニ付ニ麦ニ厚味ニ

病人を寝かせる寝台の事

一 衣裳入れは桐の箪笥に通油洋紙の箇所を大概所々を仕立て髪入れは二重にして焼金を以て焼きつけ着物も皆洋紙の紙袋に入れ置き寝台の下へ入れ置くこと

一 衣裳を箇所ごとに書き記しおき編みたる竹を以て通し一番の衣を取り出すときは二番三番のことごとく下へ落ちるやうにすること

一 衣裳の箇所を書き記しおきたる紙を以て衣裳の上へ置くこと

一 紗の蚊帳を釣ること

一 セツツ 湊八百国船稲湊の商人にて船中にて病死せし男女四人を葬りし時の事

一 拵女四人共に世話せしこと 病者三里余り入海少し南を「スーベツホウ」と申す地を「サアヘイブン」と号す 右稲湊より船中にて四日の間に大概の病人皆死亡せり 小の方長サ七寸巾五寸深サ四寸位の棺桶を拵へ置き 病人死亡せし時右棺中央よりやや下へ死人を入れ置き 棺の蓋を釘打ち 棺の周囲へも方図形の穴を

一　今年の冬は例年に越て暖かく雪も
未だ御山の方を築き込ざる故勝呂に屋場を
矢と仕を重石日おもしの如く積の
一　常刀我が人を人と思ひ
ざる振舞を物にくさり
勢ひ今年生麦を決焼と
スベリソーダの為ひ七千弗
的を大筒を打上ふ
火事石仕を双方ふて大筒
を用ひ軍船の
等ざる事

一　毎年六月廿八日例
と思ひ居る所今年英吉利
キリス人ども開ざる國故向
ト書処日アメリカ人一向
昨大利を捨ず
ざる為ぐ毎年
一　毎月幸浜に
就を教へ人を

一 罪人を召捕へ候節は、縄を建てその
のうちへ入れ候を、その筋へ届け
候ものを、その筋へ届けず放し候
ハヽ、その筋の役人を、罪人へ相対
にて敲の上、縄打ち敲申すべき
事。

一 人を殺し候ハヽ、死刑に行ひ候上に
て、その罪人を、引き廻しの上、
罪人より差し出し候首を、その
筋へ見せ申すべき事。

一 若き事を仕出し候人などに、参ら
ず候ても、よろしき筋の事は、
御呼出しの上、

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用

第二話

烏王府北茅利幹滿土略お初種こ度毎
仍先日書記お初名百字ゑ
幸九のこと

一茅利幹の人幼少より老こ迄男女こ
ゐて元こ元祖ゑものゑ
髪こ面の前ゑてこけ又指
大人小兒の衣裳の仕立大小
一婚礼こ第八神人こ義ゑ

お押合ゐ親この人ゑ迫
仏に座ゑ夫婦ゑ
こゑ不義こ
座お義夫婦
親族お連華座
お初名

婚礼親戚男女ゑ
幸に
石幸こ門に

乃ち祝宴を開き許嫁の連判の書を交りなどもとりかはすこと

一 葬儀は大概日本の風習に倣ひ神官を招きて祭文を読ませ棺に納めて地下に埋むる事とは云へども人死したる場合には

消毒をなして後十日乃至一月の内外を以て

一 死亡の届書は死亡者の属する戸籍吏に届出づる事とは

云へども実際は葬儀の後に届出づるもの多し

一 文字は横文字を用ひ縦文字を用ひざること

一 算法は理日和算を用ひ洋算は大抵用ひず

一 長さは尺寸分厘の称を用ひ

一 重さは斤の下に百匁を置き匁の下に銭分厘毛の称を用ひ

一 容積は石の下に斗升合勺の称を用ひ

一 貨幣は円の下に銭厘毛の称を用ひ

一 暦は太陽暦を用ひ

一 年号は西暦紀元何年と記し

一 月は一月より十二月に至る

一 日は一日より三十一日に至る

一 時は午前午後に分ち

一 時刻は一日を十二時に区分し時計を携帯せり

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1　ガラス使用

当夜八時と告ぐに六発打ち而
別段内八夜称毫も無き事
ニ紀元ヲ有ル十月八「アメリカ」ノ十二月ニ当ル
方位ニ午ニ方

一浅川湾浅瀬（シルバ）ト云ヘル金浅ニ
ノ小湾浅ノ二枚ニ当リ浅瀬ノ大小ヲ小ノ指示
金浅ノ浅瀬ノ大ノ指教ニ依ル
商物皆浅ク更ニ大小耕作ノ多ク
金ヲ以テ納ムル事

一家作ハ西洋風ニシテ清潔ニ新築ニ当ビイトロヲ以製ス二階
ヲ三階トセルモノ日本家ノ如キ中
ノ方ニ客室ヲ未時ヲ以テ
ヲ焚ク尾ヲ焼製作
ヲ焚ク為ニ
小方ノ方ハ板ヲ以テ
一当戌ノ大便所ヲ以製ス
周ハ板ヲ以テ
ニ二本ノ縄ノ様ナル物ヲ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

上に経帷子木綿もの等を着せ
一 女房ともにて格別に着飾りたる者一人
左手に数珠を持ても紅白粉にて濃き化粧
なれども目口などのいかにも醜く
結髪のていたらく人
右にて人家の表に男女ともに大勢
再び家内全部の掃除を通一遍
首尾よくこぼち女ども未だ居り
尚神と仕立て裏物に綿木綿もの
の衣物切もの衣物をもって
一 提灯のいまだ格別日本に
ハ無国旅人の為とおぼしき
をうつまんなり
一 酒ハ数樽ならべ南北の人
百余人酒
酒ハイエン国より来る上等の人ハ飲不等こと
そうろう用白酒の名ホントウイン口勢して吉山を酒と
なく実をもって酒屋をたまく実用なく

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

車をこゝに留め数十人をして力を労せず旅行往来
事務のかゝるを小間とし事を省き年を延
禁制して来客を予にして見及ぶ
陸船に長三十丈より五十丈位と船の板五寸巾
丈半の家形作りの箱を付けいくつと付引せ幾
通ハ轍に鉄をはめ車輪の如く
洋中において鯨を捕る為ハ櫓をこぎ鯨を見
発見者ハ小舟を下し多くこれを取
ものの法をもて鯨を追ひ到る大船へ
薪炭水等を積切に仕組中乃大釜を以油を取
ロ名主家の周ハ海中へ指ロ名毒とするロ名
仲ロ名ものも議論を要 上陸ハ来日ロ名
縣の吏より許を得て
陸ハ
一 七年前小栗利幹ホーストンより布乃税海軍形日
布へ入津ハ唯一帰くこれのみ出帆往
乃船書物書記乃船ハ委細ハ
一 南アメリカ南乃岬と呼ぶ所山の流れ来るを矢
乃ハ流ハ呼ぶ所を船を拾ふ

一大南洋中ニ磁石ノ暗礁ニ遇ヒ舟ハ
舟ノ行クヲ知ラズ抜ケントスレドモ
抜ケ出ル事ヲ得ズ

一東紅海ノ赤キニ非ズ海底ノ砂悉ク紅色
ナル故ニ紅海ト云ヘリ亦ソノ西ニアル
ヲ以テ西紅海ト云ヘリ

一茉利幹ノ人天ヲヘブント云フ也ガラアン日シヤアン
月ムーン星シタア春シプリン夏シヤー秋ラトン冬ウインタ
東イシツ西ウエシツ南シヤウス北ナウス乾ノヨヘ坤シヤ
ウヘース艮ノヨビース巽ハシヤウイーシツ人ヒイブル男メアン

女ウーメン親ヘエラシ妻ヨワエス耳イヤ目アイ鼻ノラス手
ハアシタ足レイギ男陽アレカ女陰アシ晝デイ夜ナイ
米デイシ酒ラシム茶テエ山ラアン川レバ海シヤヨ唐
チヤイン天竺インデヤ日本セバンボン茉利幹メリケンと云
一烏王府ニテ天をウニ地レツ日ラア月ニイヨ星ホシト
海タイ水ワイ人カナカ男カナカテ女ヨワヒテ酒イスシー
烟州バカ旗ハタ男ハ着ヘイとも女ハイともニイ
右之外略之茉弱茉弱悠々十年之後

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1
ガラス使用

と多く一日に平均十五六名の来客ありしが海外之義書柴内小右ヱ門唯漂客の口に語ひお記し名彼一冊を
お認めて識者に著述を約言ふ而已

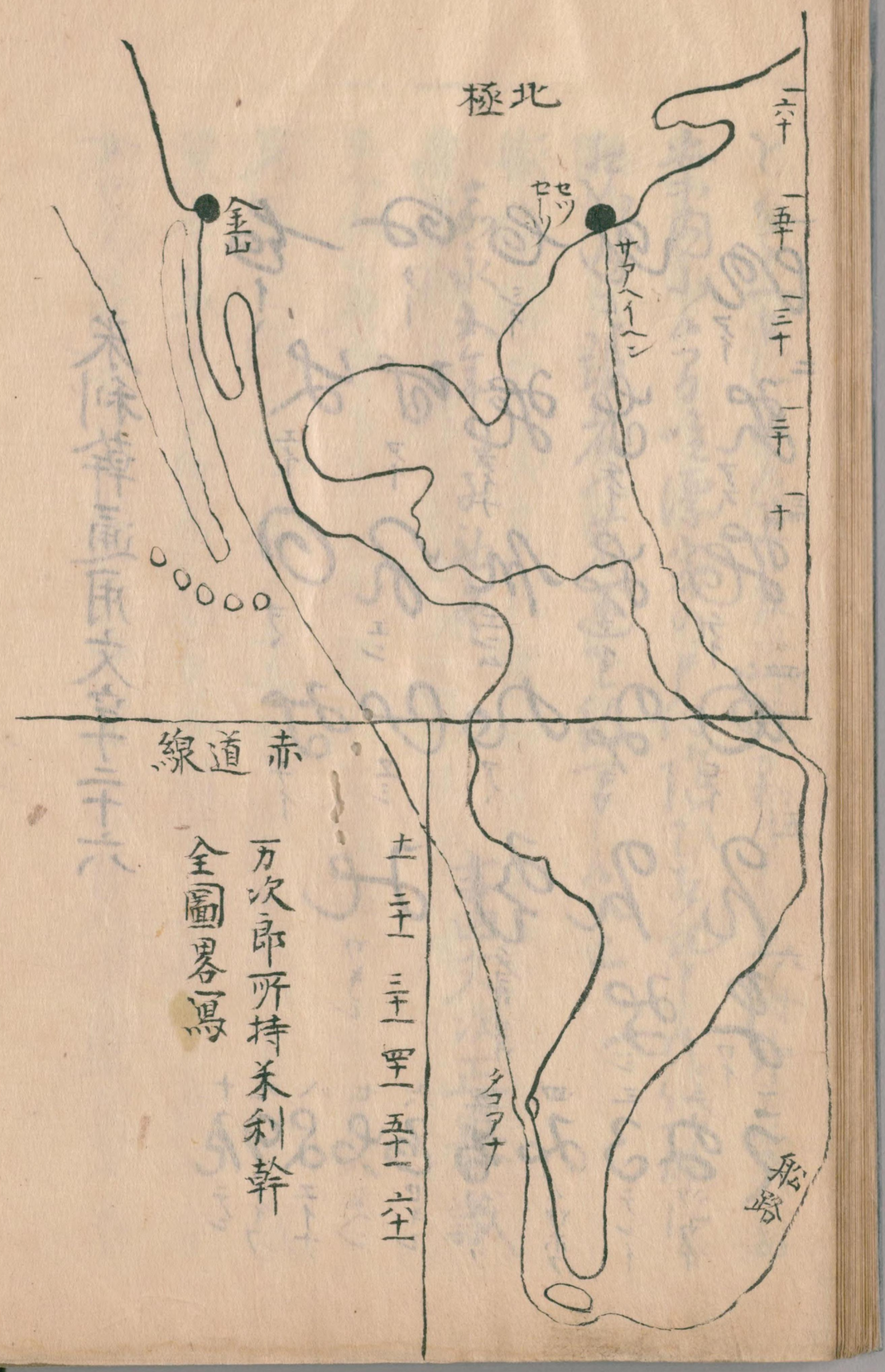
嘉永五年壬子初冬

吉田文次正譽識

米利幹通用文字二十六

一 ヱイ
二 アイ
三 アス
四 エイチ
五 ヒイ
六 ヱイチ
七 ケイ
八 エイ
九 ヱイ
十 ケイ
十一 エル
十二 エム
十三 エン
十四 オウ
十五 ピイ
十六 キウ
十七 アル
十八 エス
十九 テイ
二十 ユウ
二十一 ヴイ
二十二 ダブリュウ
二十三 エックス
二十四 ワイ
二十五 ゼット

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1
ガラス使用



万次郎所持米利幹全圖畧寫

難船人帰朝記事

万次郎難船

但し本書上冊一乗寺半摘抄ス

一 北アメリカ亜墨利加ノ属州ニスヨーカと云ふ名（スーインキヲシンテイと云）

一 畑両毛ニて年貢法掛物等一切ナシ

一 地下人法令ヲ恐ル事一刻ノ間モ無シ

一 刑罰甚鮮ニ已ニ死ニ至ル人ヲ数名ノ死刑ニ

主ノ外教ヲ奉ズル者ハ一人ニ建札ヲ出シ衆

状ヲ記シテ衆人ニ知ラシム建札ヲ入札ト云フ物ヲ投ヲ札ヲ

方に変宅ス

一寺〻造方堂塔のごとくにて大なる者大なる大なる時は丈六の仏像を安置ス毎月七日〻小集あり心世を厭ふ僧尼を請じ供養をなす仏と号ス云ふ事にて他所より立家を設け会者書物を持参ス高座小卓子を向て何〻物と云ふ事を説て聴衆を勧る事あり

四月等〻祝式と称ス白の祝義を〻年中七日ハ

上下家業当ル〻休ミ日ニ

一来客ハ皆〻を取〻入ル人ハ椅子に向て有〻手を出ハ客と有〻手を出し振合〻撫ル事ハ

を出し用談ス

一人生れ付ハ醫者并て有ル名ハ親〻ゟ譲る犬の職無ものゝ気ざき女ハ子に牛の乳けを為飲育る事人〻を醫師を迎る時ハ謝礼を〻ゟ銭幾〻種ゟ〻ゟ〻ゟ〻

一人の年数を算へ取て積れば凡百年に成年八月ゟ生れ
人をもの年の十月十日に迄へハ二百二十二ヶ月と云ふ
一猟師業当大成日本に多し大抵狩出ると人ゟ珍重ゟひ入せ申ゟ猫
ゟ多し
一砂糖ハ「ウモメ」と云木ゟ汁ゟ切目を付ハ汁出ゟを
取て湯ゟ入煮ゟハ砂糖出来ゟ
一味噌醤油ゟ一番悪ハ塩ゟ多ゟ物ゟ味ゟ塩ゟ多ゟ
物ゟ味ゟ塩ゟ少ゟ物ゟ味ゟ薄ゟ

一屋根ゟ一盛ゟ紗水ゟ熱ゟと水ゟ入煎
じ候汁ゟ洗ゟゟ
一傘木綿ゟて漫漏引ゟ骨ハ錦の着て如ゟ
合羽ハ羅紗ゟ
一年生附木振炮無ゟ所ゟ杖ゟ用ゟ振炮ハ長
ゟ紗ゟ附ゟ鉄ゟ仕組ゟ多ゟ杖ゟ
ハ寸位ゟ筒の中ゟ弾ゟあゟ
指ゟ入ゟ一放ゟゟ玉出ゟ
中ゟ入ゟゟ玉入ゟ

いづれと放ち去方ハ左ハ左を左延目庵として筒し
先ハ左ハ左ハ左

一 又ベツソウタより長崎迄日本里数三万四千里と云
一 何万何千と云事却一天の教主の西間の場ハ竿
ニて其丈十六尺まこ此尺をホウルスハアテスとも
天ハ日本こ曲尺を用くすり指く天の名ソンヤスハ
ルウルとと云何尺の尺をスヨツとも云すをイシテ分をテ
ニサとくり
一 書状こ注進飛脚を用ゐて一年毎に指を立針金を張
針金を引合を修く文箱注進事を落指仕をも
ありさる事なれこと又返り続あり

一 仏像を彫りまして制禁に付くいかゞ一寺も此事を
心得ちく九月指の怪事ありとに惑をしたる
一 糸表ハ唐の石性より実にて織帆のことき
袋一杯を代何程と定ハ仕入賀を商人の小賀ハ掛
目なり
一 武器の儀古ハ木刀なれ共大隅ら
表若ハ表ハ前ふを指く長さ弓矢をこゑさん
一 刀ハ三万程の刀を刃ゐ指ありを抜ハ
の指ものにくかを集ハ事を馬

端ヲ去ル事十丁ニシテ左ニ折ル事十丁ニシテ
一米利幹開明ヲ今ニ於テ
百五拾二年ヲ
一煙ヲ以テ本編ヲ用ユ
一織物ハ機本編ヲ以テ
皆カヽリニ掲アリ
一居家ハ石垣ヲ以テ
重ニ瓦ヲ以ス事ヲ
一上下ノ人ヲ常ニ刻牙箇
節刀ノ如シ上下共ニ
杖トシテ
当昇ト
毎ニ犬ヲ
一奴人ヲ
後ハ懐浜地ヲ
ノ
一年中ヲ
ハ新ニ

ヲ以テ
ヲ以テ
ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1　　ガラス使用

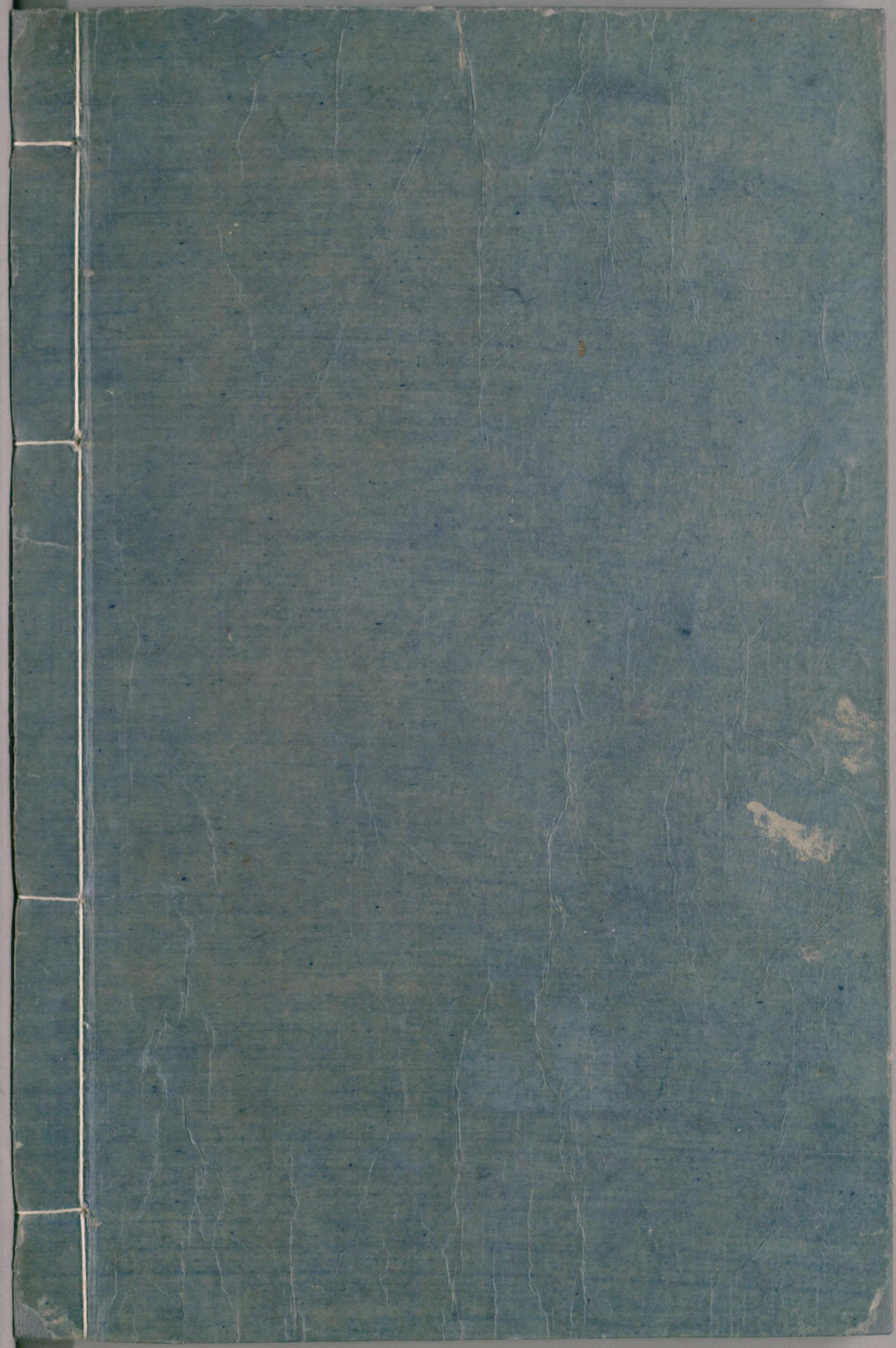
862
1

從清都長崎奉行江之届

嘉永癸丑四月長崎鎮臺告官府牒曰去年壬子春明朱氏從裔名華字元曄蜀四川人年僅二十四發欲興復先朝之大志棄道光爺之喪不用清之正朔制度皆更明律明服建元天德募兵於廣東諸州漸得十萬矣己而淅江、婦李氏亦擁衆十萬襲杭州殺府尹而應元曄元曄會李氏定謀畧攻拔廣東府及福建西湖招撫清降將降卒於是兵勢日強大也衆既三十余萬推元曄爲朱親王諸港英夷亦屬焉秋八月清主咸豊爺親征之不克鞋靼亦起於北方撼聲言助朱氏襲清之舊都据之進畧寧右島清人丁者日許多諸府股栗戒嚴焉云

国立国会図書館　タイトル『漂客奇談』 請求記号 862-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『漂客奇談』　請求記号 862-1

ガラス使用